

★学校教育目標		○明るい子ども	◎考える子ども	○強い子ども	★重点計画の概要	
★目指す学校像（ビジョン）					学校の教育目標、目指す学校像を達成するために、第3次日野市学校教育基本構想「すべての「いのち」がよこびあふれる未来をつくっていく力」を基本構想の理念とし、「いのち」「学び」「地活」について重点化するとともに、	
【めざす児童・生徒像】		○自然を大切に、優しい心で接する子供 ○自ら考え、判断して、よりよく学び、行動する子供 ○健康・安全に心がけ、前向きな気持ちで生活する子供			①「特別の教科道徳」を校内研究として取り組み、児童の自尊心や自己有用感を高める。特別活動を教育課程の中心に置き、特別活動と特別の教科道徳との往還を研究の中心とする。	
【めざす学校像】		○安心・安全な学校 ○子供が嬉々として登校し、自分の成長を実感する学校			②生活指導については、「東光寺スタンダード」を浸透・徹底させ、規範意識の育成、基本的な生活習慣・授業規律を確立する。保護者会や学校便りを通して、保護者・地域にも発信する。	
【めざす教師像】		「共に あたたく きびしく」 ○教職員同士、地域・保護者と共に ○報告・連絡・相談を迅速・密に ○服務事故ゼロ			③コミュニティ・スクールとして、地域との双方向のつながりを強め、地域に根ざした学校を目指す。地域の特色を生かした活動の充実と、地域のために貢献・活動をする児童を育成する。地域・保護者ボランティアを授業や教育活動全般へ積極的に要請する。	

領域	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	評価指標・評価基準		学校運営協議会の意見	結果の分析と改善策
				評価点	取組指標		
いのち	教育活動の基盤は「安心・安全」であることを常に念頭に置く。自他の生命を大切に、正義感や自尊心・自己有用感、社会貢献意識など人権意識や豊かな人間性、社会性を育てる。	校内支援体制及び相談体制を充実し、児童全員が安心して過ごすことができるよう、いじめ・不登校の未然防止、早期発見、即時対応に努める。	<ul style="list-style-type: none"> 「いのち」を実感できる体験的な活動や生きる喜びや楽しさを実感できる学習や活動を行う。 〈中心的な活動〉 全校「一人一鉢」栽培（高学年は菊・4年生はホウセンカ・3年生はひまわり・2年はミニトマト・1年はあさがお） 農業活動の体験を通じた「食」への感謝と正しい知識の理解 「いのち」をテーマとした道徳授業地区公開講座や学校公開での授業公開 保護者・地域の方々と共に避難所開設訓練の実施 	4	「いのち」の取組を学期に1回以上行った教員が90%以上	<ul style="list-style-type: none"> 「いのち」の大切さを実感できる取組を今後も継続してほしい。家庭で話題にできると、とても良いと思う。 ・全学年での一人一鉢の栽培は、素晴らしい取組であり、実体験できる「いのち」として良いと思う。今後、動物との触れ合い、難しければ動画でも子供に見せられるとなお良いと思う。 ・夏休みをまたいで一人一鉢栽培は、気候の点で見直しをしていくと良い。最初から最後まで子供たちが関わられる品種が望ましい。 ・自然の中で生物と植物との関わり、食物連鎖や植物の重要性。(CO2吸収や食糧供給) 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の中で植物の世話をする時間を設定するなど、子供たち一人一人が確実に植物の世話をする機会を設定し、より意欲的に植物の栽培に取り組みることができるようにする。 ・一人一鉢栽培で植える植物については、より児童が関わりやすい種類にしておく。 ・防災安全課と連携し、避難所開設の準備方法について内容を確認する。
				4	「いのち」の取組を学期に1回以上行った教員が80%以上		
				4	「いのち」の取組を学期に1回以上行った教員が70%以上		
				4	「いのち」の取組を学期に1回以上行った教員が70%未満		
いのち			<ul style="list-style-type: none"> 年3回の「ふれあい月間」等を利用し、全校で定期的ないじめの調査を実施すると共に、児童の自発的・自主的な活動を実施する。 〈主な取組〉 スクールカウンセラーによる5年生への全員面接 年3回の「いじめアンケート」の実施と聞き取り調査の徹底 計画・代表委員会が中心となった「学校をよりよくするための児童発の取組」の実践 朝会等でのいじめ防止に関する講話 	4	年度末に、いじめ・不登校を認知し、解消に向けて取り組んでいる教員が100%	<ul style="list-style-type: none"> いじめ等、困ったときに話を聞き、対応している先生方の存在は大きい。先生方の働き方が厳しい状況になっていないか。 ・安心できる家庭・学校・地域こそが、成長する子供に必要な居場所である。社会問題である「いじめ」に取り組む姿勢は高く評価できる。また、アンケートと並行して日常の様子を常にキャッチできる風土改革と、先生の仲間同士がつながる時間なども重要だと思ふ。 ・病気による閉鎖の学年・学級が多かったので、一人1台端末で学校と家庭、クラスの仲間同士がつながる時間なども重要だと思ふ。 ・長期欠席者との接点も同様と考える。 ・お互いを尊重する信頼関係を築く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童発の取組が、児童たちや地域・保護者の目に触れるよう内容を工夫する。 ・児童集会計画に取り組み際などに、常に「学校をよりよくする」視点をもたせて報告させる。 ・いじめ対策に関して、未然防止の取組を充実させるとともに、早期発見に向けたアンケートの活用、児童とのコミュニケーション充実を図る。
				4	年度末に、いじめ・不登校を認知し、解消に向けて取り組んでいる教員が90%以上		
				4	年度末に、いじめ・不登校を認知し、解消に向けて取り組んでいる教員が80%以上		
				4	年度末に、いじめ・不登校を認知し、解消に向けて取り組んでいる教員が80%未満		
学び	「一律一斉の学びから自分に合った多様な学び方へ」へと転換を図るために、校内研究・研修の充実を図り、指導法の工夫や教材研究を行い、児童の力を最大限に引き出す。	特別活動では、「話し合い活動」の積み上げを生かし、自分たちで考え、語り合いながら学び合いの学習活動を展開する。前学年の復習と新学年の学習内容の定着を徹底することに努める。	<ul style="list-style-type: none"> 児童の学力向上及び教員の授業力や学級経営力の育成・向上を図り、協働的な学習を中心とした授業改善を図る。 〈主な取組〉 自分たちなりの方法で、自分たちなりに考える過程を大切に 一人1台端末の有効活用やICT支援員を積極的に活用した研修を行い、一人一人へのよりきめ細やかな支援体制を整える 	4	自らの研修成果や授業実践を公開し、校内研修に役立てた教員が80%以上	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちで主体的に考えることがとても大切で、考える姿勢が定着すれば評価も上がると思う。 ・特別活動での自らの考え、主張がクラス内で生かされているか、クラス運営が前向きに進められているかをもっと知る場が欲しい。 ・一人1台端末も「いじめ」の要因になる。自分を守る、他者への思いやりをきめて使い方を学ぶ機会が必要である。 ・ICTを活用した授業が多く見られており、子供たちは自然に扱っている。全ての家庭にある物ではないので、学校での活動で慣れることは意味がある。 ・指導者が大事、子供の手本となること。先生によって子供は変わる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の中で一人1台端末を積極的に活用し、児童が使いこなせるよう継続して指導を行う。 ・一人1台端末を活用するに当たって、使用上のルールやマナーについて繰り返し指導する。 ・特別活動における話し合い活動をさらに充実させ、児童自身が主体的に学習に臨む力を高める。 ・授業では、教員が児童に分かるように本時のめあてを提示し、児童が目的を明確にして毎時間の授業に取り組めるようにする。
				4	自らの研修成果や授業実践を公開し、校内研修に役立てた教員が70%以上		
				4	自らの研修成果や授業実践を公開し、校内研修に役立てた教員が60%以上		
				4	自らの研修成果や授業実践を公開し、校内研修に役立てた教員が60%未満		
地域	コミュニティ・スクールとして地域と学校との双方向の教育活動を展開し、地域に根ざした学校を目指す。	経験させてもらう学習から、地域に貢献できる活動へと高めていく。開校して現在までお世話になった保護者・地域の方々に感謝と尊敬の念をもたせる。	<ul style="list-style-type: none"> 地域の協力により、農業体験をはじめとして地域との協働的な学習活動を展開できている。今後は、地域の方々への感謝を具現化できるよう、児童自身が地域の活動に参加し、主体者として地域の活動に関わる経験を積ませていく。 〈主な取組〉 地域と積極的に関わり、子供たちが主体となって考え、発信する活動 地域と共に学ぶ活動、地域に貢献する活動など、双方向の活動を行っていく ・代表委員会が考えたスローガン「仲よく笑顔で協力できる東光寺小学校」を基に、東光寺小学校をよりよい学校にしようとする決意をもたせる 	4	地域・保護者ボランティアを学期に1回以上活用した教員が90%以上	<ul style="list-style-type: none"> 地域に関わる学習について、準備段階から先生が主となるよう移行したことで、地域としては負担軽減となり、ありがたい体験を通しての学びは本当に大きいと感じるので、今後も継続できるように、双方とも工夫していきたい。 ・コロナ禍で各活動が制限されていたが、昨年5月から活動がオープンとなり、児童一人一人が今後の地域活動に多く参加することを期待したい。地域自慢ができるようになるためにも、大人たちの行動が大事。 ・代表委員会のスローガンをもっと地域に発信していきたいと思う。 ・「地域のために役立つ行動」が抽象的で児童が理解しにくいので、まずは「自分の意思で参加したか」と良いと感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域での体験活動に関し、今年度から行ってきた教員が中心となった計画を継続して進める。 提案や計画を資料として引き継ぐことでさらに効果的に、充実した活動にできるようにする。 ・代表委員会のスローガンは、目立つ場所に掲示するなど、児童・保護者・地域が認識できるようにする。また、年間通してスローガンを念頭に置いて児童が活動できるように意識付けを行っていく
				4	地域・保護者ボランティアを学期に1回以上活用した教員が80%以上		
				4	地域・保護者ボランティアを学期に1回以上活用した教員が70%以上		
				4	地域・保護者ボランティアを学期に1回以上活用した教員が70%未満		
特別活動	児童が互いに認め合う中で、「自分は大切な存在である」「自分が役に立っている」「自分の居場所がある」ことを実感し、自己有用感を高め、健全な自尊心を育む。	学級経営充実のため、年間を通して特別活動の研究と研修を行う。子供たちには実践を通して成就感を積み重ねることと自己有用感をもち、自信をつけさせる。また、今年度は、研究の中心を「特別活動と他教科等の往還」に置き、特に特別の教科道徳での授業改善に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> 学級会の進め方について、児童も教員も共に学ぶ。クラブ活動・児童会活動の進め方についても学級会での話し合いを生かし、児童の手によって計画などを決められるようにする。 〈主な取組〉 教師指導資料「楽しく豊かな学級・学校生活をつくる特別活動」、副教材「楽しい学校生活」の活用 ・全学級の学級会授業観察 ・委員会・クラブ活動の様子をオンラインを活用して全校で紹介 	4	特別活動の資料または副教材を活用した学習活動を行った教員が90%以上	<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活を豊かに楽しもうという意欲が子供から感じられて良い。今後も続けてほしい。 ・考える子供であること。学級会などでは意見や考え、質問を一つでも言えるよう、人の話をしっかりと聞き、考える。 ・長年にわたる道徳教育が礎となり、子供たちの自然体な生活態度に表れていると思う。 ・子供の能力、成長は、その子の子によって大いに違うと思う。集団生活において皆同じというのでも大切だが、温かく広い目で見守っていただければと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・特別活動と道徳授業、道徳教育への取組を継続、発展させていく。 ・道徳授業地区公開講座等の機会を活用し、道徳教育の重要性と効果について保護者・地域と共有していく。 ・異動してきた教員に対し、東光寺小の長年の取組について確実に伝えて共通理解を図る。 ・児童自身が話し合い活動のよさや、自分たちで物事を決め、実行していくことの楽しさを実感できるよう、教員から繰り返し価値付けを行う。
				4	特別活動の資料または副教材を活用した学習活動を行った教員が80%以上		
				4	特別活動の資料または副教材を活用した学習活動を行った教員が70%以上		
				4	特別活動の資料または副教材を活用した学習活動を行った教員が70%未満		
特別活動	児童が互いに認め合う中で、「自分は大切な存在である」「自分が役に立っている」「自分の居場所がある」ことを実感し、自己有用感を高め、健全な自尊心を育む。	学級経営充実のため、年間を通して特別活動の研究と研修を行う。子供たちには実践を通して成就感を積み重ねることと自己有用感をもち、自信をつけさせる。また、今年度は、研究の中心を「特別活動と他教科等の往還」に置き、特に特別の教科道徳での授業改善に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> 児童が自分たちの学校生活を自らよりよくしていけるよう、平成30年度から特別活動の研究を進め、今年度は6年次となる。6年次の特別活動の実践の蓄積を基にして、令和4年度からは特別の教科 道徳の研究を開始した。今年度は2年次として研究の中心をこれまで育ててきた資質・能力を生かした特別の教科道徳等との往還に置き、授業改善に取り組む。 〈主な取組〉 特別活動における研究の成果を土台にした特別の教科 道徳の研究 ・低・中・高学年3つの分科会で、それぞれの発達段階や特性に応じた研究の推進 ・学級担任・専科教員・つくみ学級・ステップ教室の教員全員が3つの分科会に所属して行う研修の充実 	4	研究主題に基づく特別の教科道徳の取組を行った教員が90%以上	<ul style="list-style-type: none"> ・学級運営がうまくいっていない話は聞かないので、平成30年からの取組がうまくいっているものと思われる。令和4年度からの取組も頑張ってください。 ・先生方が日々努力している姿は、子供たちにも伝わっていると思う。 ・家庭の中で役に立っていることを実践する。 ・「役立」という言葉は抽象的なので、「意見を述べた」「対話を行った」などに置き換えてはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童自身が学校に役立てた経験を実感できるよう、教員が児童の行動を価値付け、認める機会を増やす。 ・なかよし集会や委員会活動・クラブ活動等の機会に、児童自身による振り返りを充実させ、自己肯定感を増やせるようにする。 ・「役に立った行動」の具体的な事例を示し、児童自身が無意識のうちに行っている行動を価値付けできるようにする。
				4	研究主題に基づく特別の教科道徳の取組を行った教員が80%以上		
				4	研究主題に基づく特別の教科道徳の取組を行った教員が70%以上		
				4	研究主題に基づく特別の教科道徳の取組を行った教員が70%未満		
生活	生活指導の充実と豊かな人間関係の育成及び安全で安心できる学校体制をつくる。	学校生活全体を通して、基本的な生活習慣や学校のきまりについて、全教職員が、いつでも、どこでも一貫性のある指導を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 「東光寺スタンダード」の基本的な考え方や実践方法を共通理解し、浸透・徹底を図る。また、保護者会や学校公開等の機会を通じて、東光寺スタンダードの実践を保護者や地域の皆様に向け発信し、地域全体で子供たちのよりよい生活習慣づくりに取り組む。 〈主な取組〉 時間の厳守 廊下の歩行 ・来校者や友達への挨拶の励行 ・脱いだ靴の整理整頓、ゴミ拾い等の奨励 ・授業を中心に互いに敬称を付けて名前を呼び合う習慣 等 	4	東光寺スタンダード実施の自己評価で3以上達成したと答えた教員が80%以上	<ul style="list-style-type: none"> 子供たちの挨拶は一人になっても反応があるが、教職員の一部の方で、「なぜそこで背を向けるの!」と思うときがある。相手が誰か不明でも、関わっている地域の方々へは、ぜひ声掛けをしていただきたい。 ・挨拶こそ社会の基本と思っている。守らせるだけでなく、理解し自然と行動に移せるスタンダードになってほしい。家庭でも同様にしてきているか、先生と保護者で対話をしてほしい。 ・子供たちが互いに相手尊重した呼び方をしているのは、学校教育の成果だと思ふ。一方で、あまりに細かいルール設定は教員、児童共に自由度が下がり、自己決定力や発想、創造力の阻害になるのでは危惧もする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校内では東光寺スタンダードがかなり浸透してきた。登下校時のマナー等もさらに改善できるよう、指導を行う。 ・東光寺スタンダードの考え方を基に、学級活動等で、東光寺小をより良くするために児童自身ができることが何かを考える機会を設け、自発的に学校の秩序を構築する雰囲気や意欲を醸成していく。
				4	東光寺スタンダード実施の自己評価で3以上達成したと答えた教員が70%以上		
				4	東光寺スタンダード実施の自己評価で3以上達成したと答えた教員が60%以上		
				4	東光寺スタンダード実施の自己評価で3以上達成したと答えた教員が60%未満		

※評価指標・評価基準は、2の段階を現状としています。